



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 121 号

R5.6.21

文責 中西 勉



校長先生の「本の読み聞かせ」

6月5日(月)～29日(木)は「あじさい読書週間」です。これを機に、男川っ子には、自ら積極的に本に親しんでもらいたいと願っています。そこで、今週19日(月)の朝には、私が全校放送で「本の読み聞かせ」を行いました。

今回、私が読み聞かせをしたのは、くすのきしげのりさんの「おこだでませんように」です。去る5月17日、作者のくすのきさんが蒲郡市に来られ、講演をお聞きしました。講演会の後、運良くくすのきさんにお会いすることができました。くすのきさんは、本にサインをしてくださった上に、私とのツーショット写真にも応じてくださいました。

『おこだでませんように』は、2009年の青少年読書感想文全国コンクール課題図書になった有名な作品です。物語は、主人公が七夕の短冊に「おこだでませんように（「おこられませんかのように」の意）」と願い事を書き、担任の先生や母親の心を大きく揺さぶるというストーリーです。七夕が近い今、時期的にもタイムリーな作品です。また、関西の言葉で書かれているので、三重県で生まれ育った私は、慣れ親しんだ関西の言葉を遣い、いつもとは違う口調で読み聞かせを進めました。

読み聞かせを終えた後、私は男川っ子に「七夕の願い事はどんなことを書きたいですか」と尋ねました。子供たちが短冊に、それぞれどんな願い事を書くのか、今からとても楽しみです。そして、最後に、子供たちに、「校長先生は、「男川っ子がみんな心の優しい人になれますように」と書きたいです」と伝えて、読み聞かせを終えました。すると、1年生の教室から大きな拍手が聞こえてきました。子供たちと気持ちが通じ合い、心がほっこりした瞬間でした。



内田文庫贈呈式

先週16日(金)に、大平西町の内田様が、「男川っ子がたくさん本に親しめるように」と、今年も多くの本を寄贈してくださいました。このご厚意により、図書室の「内田文庫」の蔵書がさらに増えました。内田様の想いを大切にしながら、子供の心を豊かにする読書指導を積み重ねてまいります。



▲プレゼン形式で読み聞かせ



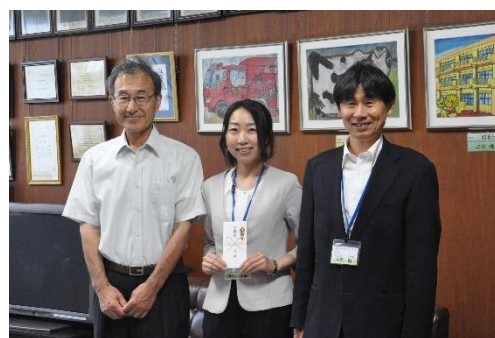
▲くすのきしげのりさんと一緒に



▲『おこだでませんように』



▲集中して絵本に見入る1年生



▲内田様(写真左)から多くの本を寄贈していただきました